

2025 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名			
所属	理工学部	学年	4 年
派遣先大学	IITK		
期間	2 週間		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

派遣先大学では、最初のプレゼンがうまくいったのか、自身の研究テーマと非常に関連のあるテーマに携わることができた。所属研究室の学生の大半は PhD の称号を持つ学生で、研究に対する姿勢や使う理論をそこでは学ぶことができた。語学面については、院試対策として取得していた TOEIC810 が下地となっているおかげで、日本に滞在時と現地滞在時では英語を聞き取ることができた。自身に関しての課題はスピーキングの技術であると学んだ。語学面に関しては、現地のインドの学生は出身州の言語とヒンディー語と英語が喋れると伺った。うまく会話ができるのは母国語である日本語のみであるため、一概には言えないが、現地学生との差を感じた。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

所属研究室では、文化も言語も異なる遠い異国の地でこれから地球を背負っていく同じ世代の人間が持続可能な社会実現に向けて、地続きに続く果てしない知の探究をしていた。ヒンディー語と英語の 2 か国語をしゃべる彼らの研究スタイルにも衝撃を受けたし、研究サイクルにも衝撃を受けた。同時に、インドに比べ研究設備が整っている日本では、学生の大半は卒業に重きを置き、英語が流暢にしゃべれるわけではない。一概には言えないが、この差が、GDP で近年インドに追い越された一因であると考えた。インドは人口が多く、それによるメリットも多いが、大気汚染や、カースト制度の複雑な問題を抱えており、政治的にも、インドとパキスタンの関係は、日本と中国や韓国との関係に近いものがあり、国が抱える問題はどこの国も似たようなものがあると感じ、興味深かった。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私たち人間は全知全能の神ではありません。私は哲学が好きで、哲学を持つものは人生を豊かにしてくれると信じているのですが、西洋哲学の父ソクラテスの「無知の知」について、遠い異国の地インドでその言葉が内包する核心に迫ることができたと考えています。出国前、さんざん言われたステレオタイプのインドがインドのすべてではなかったからです。学問を探究する人たちは知識に富み、本質的な豊かさを持ち、とても親切でした。アルバイトだらけの生活に追われ、適当に課題を出している退屈な学生はインドに行ってください。私は、研究に関しても、文化に関しても「無知の知」に立ち返ることで、これからの人生が豊かになると信じています。本プログラムはそのきっかけになると 생각합니다。

2025 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名			
所属	理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻 機械工学教育分野	学年	1
派遣先大学	インド工科大学 カンプール校		
期間	2025/09/14 ~ 2025/09/28		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

配属された研究室ではリチウムイオンバッテリーについて学んだ。大まかな理論に加え、MATLAB でコードを書いて数値解析を行ったり、バッテリー作成に関する実験を行ったりした。私の専門分野とは異なっており、英語で理解するのはかなり難しかったが、たくさん質問したり調べたりしながらなんとか理解していった。先生も学生も優しくかったので無理なく学ぶことができ、学んだ内容を研究室に持ちかえて共有することができた。

語学面では積極的に会話することで、海外の人とコミュニケーションを取ることに対するハードルが自分の中で大幅に下がったと感じている。英語力が大幅に向上したとは感じていないものの、自分の持っている語彙でどう表現すれば伝わりやすいか、分からないときはどう質問したらいいかなどを肌感覚として理解することができた。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

大学内と大学の外では雰囲気が大きく異なっていた。人口が多いため貧富の差も大きく、路上で物乞いをする子どもたちやホームレスの存在など、驚くことがたくさんあった。IIT の学生や先生方はとても優しく教養があり、余裕のある雰囲気だった。宗教や肌の色、言語などが多数存在するインドでは、その国の内側だけでも多様性に溢れていた。日本で生活しているとそうした個人ごとの違いを感じにくいのが、インドで直面した多様性はもっとスケールの大きいものだった。そしてその多様性を、すべての人がごく当たり前に受け入れていた。国際化が進む中で、これは私たちに欠けている、しかも私たちが自覚していない感覚だと思った。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

何よりも大切なのは「積極的に動くこと」です。日本でのプログラム中も積極的に会話して、いろいろなところへ一緒に行ってみるといいと思います。不安は次第に解消されていき、語学、文化、SX 課題について、かなりの密度で学ぶことができます。仲良くなればその分派遣先での滞在も充実すると思いますし、話せば話すほど彼らはたくさんのことを教えてくれました。

